

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎・基本的な知識・技能の定着が一定程度見られたが、時間が経つと分らなくなってしまう傾向がある。そのため、来年度も引き続き学習を遡って繰り返し復習していくことが必要である。また、やり方を覚えるだけでなく、「どうしてそうなるのか」という仕組みや理由についても、繰り返し確認することでより強固な知識・技能の定着を目指す。そのためには、教員が学習内容の系統性を理解して指導する必要があり、学年を超えて共に高めあえる研修体制を整えていく。
思考・判断・表現	問題を正しく理解し、問われていることに正しく答えることに苦戦している児童が多く、問題を読み取る力に課題がある。また、身に付けた知識・技能を「いつ」「どのようなとき」に使うことができるのかを判断する力に課題がある。そのため、個別最適な学びや協働的な学びを更に深く、思考の道筋を整えたり、考えたことを表現する力を高めていく指導が求められている。各教員の実践を見合い、協議していく中で共に高めしていくことのできる研修体制を整えていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「図形」数と計算 <指導上の課題> 個人差が大きい。類似の問題を学習したり、学習から時間が経ったりすると分らなくなる傾向が強い。	⇒ 朝の学習(あゆみタイム)の時間を利用して、現在の学習に関連のある単元の復習をドリルパークやスタディサプリ、問題集などを活用して行う。【週1度】 授業の最初に前時の学習を振り返る時間を設定し、繰り返し練習する機会を与える【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」 算数「図形」変化と関係「データ活用」 <指導上の課題> 問われていることの本質を捉えることが難しい。どの知識を活用すればよいかの判断ができない傾向が強い。	⇒ 重要な言葉に線を引いたり、文章を短く区切って読み取ったりするなど、問題文の読み方について繰り返し指導し、自力解決の時間にも活用するように指導する。【毎時間】 問題から読み取れることを図や表などに表すことで、問われていることを整理する力がつくように指導する。【毎時間】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	朝学習やICTを利用した繰り返し学習によって、さいたま市学習状況調査の正答率に改善が見られた。特に、ゲーム感覚で楽しみながら復習したり、児童の学力に合わせて課題を変えて出したりするといった、ICT機器の効果的な活用が成果を上げている。一方で、45分間の授業内で繰り返し復習を行うため、時間の確保のためのカリキュラムマネジメントが必要であるため、今後も単元全体を見通した指導計画を考えていきたい。
思考・判断・表現	B	文章から読み取れることを図や絵、言葉で表現する取り組みを行ってきたが、難しさを感じている児童が多いのが現状である。読書量を増やしていく取り組みは、少しずつではあるが着実に読解力を上げることにつながるため、今後も継続的に行っていきたい。考える道筋を順序立てて表現する機会を増やしたり、原因と結果を強固に結びつけるための効果的な指導法を研究したりして、高まってきた知識・技能を応用する力をつけていきたいと考える。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、同音異字・同音異義語に課題が見られるため、漢字そのものの意味や使用する場面を意識して指導していくことを意識したい。算数では、図形の問題に課題が見られた。基本的な図形(三角形や四角形)の特徴や書き方について、繰り返し練習することで定着を図る必要がある。理科では、物理・化学分野に課題があり、事象が起こる原因や実験の意図などを理解させるための工夫が必要である。一方で、文章を読み取る力や基本的な計算力については改善が見られ、朝学習や朝読書、授業で行っている反復練習など、日頃の取組の成果が出たと思われる。繰り返し学習を継続しつつ、児童が苦手としている分野を重点的に復習できるような活動になるように改善していきたい。
思考・判断・表現	国語では、話の前後関係を考慮して考えたり、問題の意図を捉えたりすることに課題がある。算数では、問題の場面を想起したり、グラフや数直線を読み取ったりすることに課題がある。基礎的な知識・技能は一定の習得が見られたため、今後はその力を様々な場面で発揮できるようにしていく必要がある。そのため、国語では短文や資料の読み取り問題を繰り返し行い、様々な問題形式になれる練習をしていきたい。また、算数では問題文やグラフから読み取れることを図や表にまとめたり、言葉にしたりする表現力を養ってきたい。今後は、学んだことを表現したり、テストで活かしたりする力もつけていくことが大切だと考える。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、昨年度課題であった「正しい漢字に直す問題」や「主語、述語、修飾語に関する問題」の正答率に改善が見られた。算数では、「基礎的な計算」や「データの活用」に関する問題の正答率に改善が見られた。高学年の理科、社会に関しても器具の名称や扱い方、地図の見方などに関する問題の正答率に改善が見られた。このことから、学校として取り組んだ朝学習やタブレット端末を用いた学習が、一定の成果をあげていることが分かる。一方で、学年ごとに成果に差があるため、上手くいった方を校内で共有し、教員の技術向上と共に、児童の実態に合わせた指導をより深めていく必要がある。
思考・判断・表現	どの教科を見ても、問題文が長かったり、問題を解くために複数の手順が必要となったりする問題に課題があった。例を挙げると、長方形や正方形の面積を求めることはできるが、それらを組み合わせた複合図形の面積を求めることができなくなる児童が多い。基礎・基本的な知識・技能の向上が見られるため、今後はそれらを組み合わせたり順序立てたりして、応用する力を高める手立てを模索していく必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習や授業改善によって、国語や算数の基礎となる力がついてきたことが結果からも伺える。今後は、付けた力を表現する機会を増やし、様々な問題形式に慣れさせていくことが大切だと考える。そのため、ICT機器を効果的に活用しつつ、学習したことを表現する力をつけていきたい。	学校課題研究の中で、次の2点に取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①朝時間を利用して、タブレット端末を用いたミニテストを行う。【週1回程度】</li> <li>②児童のつまづきの多い単元を把握し、系統立てて重点的に復習を行う。</li> </ul>
思考・判断・表現	B	問題文が長かったり、資料の情報が多かったりした場合、簡単にあきらめてしまう傾向がある。そのため、問題文や与えられた情報から、必要な部分を読み取る力をつける必要がある。	児童が受け身の授業ではなく、学んだことを進んで活用しやすくなるような授業展開を研究している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書の時間を確実に確保して、読書量を増やしていく。【週1回】</li> <li>国語で学んだことを表現する機会を設け、言語活動を広げていく。</li> </ul>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)